

## 私の出会った人々(六)

安島 智子

### ◇幻聴におびえる女の子◇

〈小学校二年生の舞子ちゃん（仮名）のこと〉

舞子ちゃんは一人の時、「コラコラ」と言う声や、「キンコンカンコン」という音が聞こえ、そのためにおびえているということで来談した。三歳の時もお手あらいで「こらこら」と言う声が聞こえて大泣きをしたことがあるそうだ。

舞子ちゃんはどんなお子さんで、どんな状態にあったのであろうか。

家族は、お父さんとお母さんと、三歳上のおねえちゃんとの四人家族である。あかちゃんのときから、おねえちゃんとふたりきりで留守番をしていることが多かったそうだ。

お父さんは娘たちをとても可愛がり、日曜日はお父さんが娘たちの面倒を見ていたと言つた。

普通に生まれて母乳で育つが身体は弱かつた。二歳で  
きゅうに普通に話し始め、赤ちゃん語はなかった。

ボール遊び、ブロック遊びが好きで砂遊びやままごと  
はしなかった。神経質でほんの少しぬれても拭かないと

気がすまない。幼稚園に入園した年、夜中に急に泣く日  
が何回あつた。小学校一年生のときに、学校にいくとお  
腹がいたくなつたり、円形脱毛になつたりしたこと  
あつた。自分の言いたいことが言えず、すぐにメーメー  
泣いてしまう。家ではちゃんとした言葉づかいだが、外  
では「おまえ何してんだ」といった言葉を使つているこ  
とがある。来談時に再び声がひんぱんに聞こえて来るよ  
うになつた。

〈初回のようす〉 入口で元気な男の子に出会い、ビ  
ックとしたようすだった。なかなか遊ぼうとしないこと  
や、こちらからの話しかけには何と言つて良いのか解ら  
ないといった感じを受けたので箱庭に誘つてみると、  
こつくりうなずいた。

ややしばらくじーっと箱庭遊具の棚をみていてなかな  
か取り出さない。やつと取り出したのはタコだった。タ  
コを置いた後はピヨンと飛んだ。可愛らしいしぐさだ  
が、どこか不自然に感じる。続いてロバ、タコ、カタツ  
ムリ、カエル、家を置き、人形、六地蔵、鳥居をおいて  
「できた」と私を見た。その後粘土。うさぎの顔（大き  
い顔と小さい顔）とにんじんをつくつた。

### 箱庭 1

箱庭のなかはエネルギーをあまり感じない。繊細で無意識に

となつて聞こえてきたのではなかろうか。  
箱庭のプロセスからこれらが解決されていく道のりを  
見ていきたいと思う。

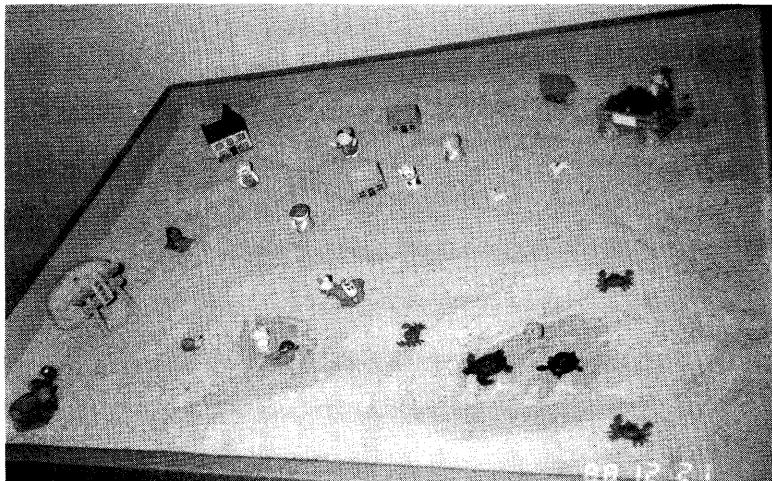
開かれている。また六地蔵は救済を求めているようにも受け取れる。タコを最初に手にしたが、これは攻撃的なものや悪の表

出（タコが黒いスミを吹くように）が抑圧されているというこ  
となのか。ロバが湖を覗き込んでいるのも印象的で、山羊が跳  
ねている感じがこの子らしい。ロバ、タコ、カタツムリもこの  
子の姿と重なった。父親像は枯草の土の香りをかんじる。父親  
は実際にも母親的存在となっているのであろうか。また左隅の  
カエルはどう変化するのか解らないような母親像でもあるのか  
もしれない。そのような対象関係の不確かさはこの子自身の不  
確かな状態や自我境界の弱さとかかわっているものと思われ  
る。またそれ故に、この子の内なる世界の深さとの交流がおき  
ているのではなかろうか。

舞子ちゃんが置いた箱庭からこのようなことを感じて  
治療が始まつた。

—遊べなさから、遊んでみようかな—

二回目には「なにして遊ぼうか」と尋ねると、「わか  
んない」と言つたり、「遊びたいおもちゃある?」と尋  
ねても、「ない」と言つていて。たまたま前に遊んだ子  
のプラレールがあつたのをやつてみたが、つながらな



▲箱庭1

い。苦しそうなので、「ここまでにしようか」と言うと、ほつとしたようだつた。

三回目は、攻撃性が水路づけられて対象に向かい、それがしつかりと受けとめられる体験ができるべと思ひ、サッカーゲーム・オセロ・羽が吸いつくバドミントンに誘つたが、これは楽しそうだつた。

五回には、「今日は何しよう」と言つてみると、「あれなに?」とパン屋さんのコーナーセットを指さす。遊んでみようかなと思えたのかと嬉しかつた。

六回目には、ウルトラヒーロー大決戦ゲームを選んだ。戦う相手の怪獣は一つにした。戦いになると、代理に戦わせるカードをつかい、自分で戦わない。怪獣と戦うのが恐いのだろうなと思つた。

(母親面接から。おねえちゃんたちと遊ばなくなり、無理をしなくなつた。)

—箱庭・内的世界の進展のはじまり—

箱庭をするほうが、楽で自然のようだつた。七回目頃

から、毎回箱庭を真っ先にすることが続いた。一連の作品を見ていただきたいと思う。

### 箱庭 2

砂を動かして、大きな海を作り、赤ちゃん

を二つ置いた。

右下の三人はお父さんと、お母さんと赤ちゃんと。新しくお父さんとお母さんの関係を求めているのであろうか。

この回は魚釣りゲームで魚をたくさん釣つ



▲箱庭 2

た。箱庭をした後、やりたい遊びをするというパターンで各回が進んだ。この頃は特にボーリングがおもしろくて、びんをいろいろな形に並べては、ボールを転がし倒すことを二人で交互にやつては笑いころげていた。

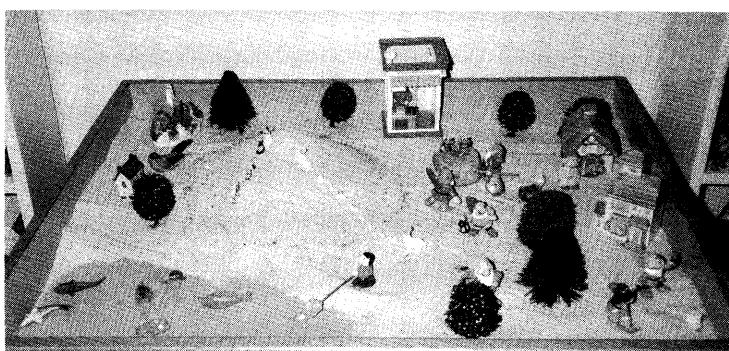
(母親面接から。お父さんの添い寝を拒否。いじいじしなくなり、いやなもののはいやと言うようになつた。やりたいものは本当にやりたがる。)

— 箱庭・小人さんたちのおしごと —

### 箱庭 3

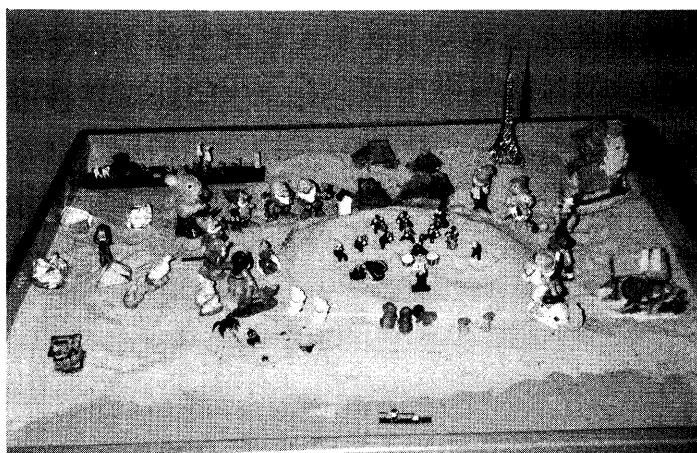
小人さんたちが、門をくぐつてむこうの世界（地下世界）へいこうとしているようだ。何を掘り当てて来るのであろうか。

### 箱庭 4



▲ 箱庭 4

「小人さんたちおしご」としてゐるの」。小人さんたちの「おしご」とは、むこうの世界（より深い次元）で何かが達成され、その世界の生命を得ることをもたらしているようと思われる。



▲ 箱庭 5

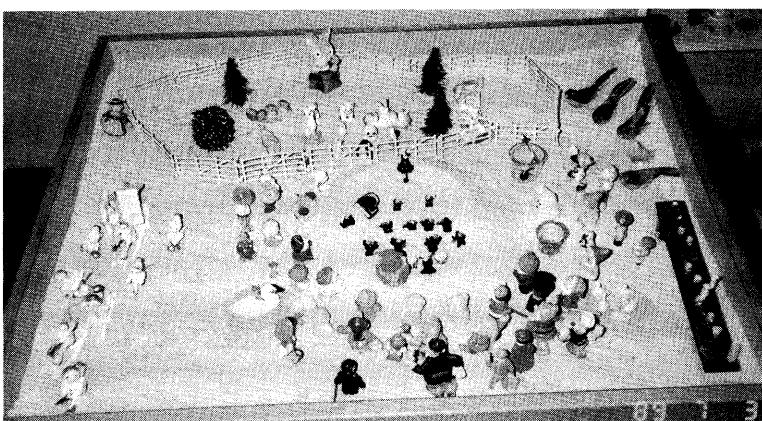
「みんなで演奏会聞いて  
るの」。むこうの世界を  
いっしょに楽しんでいるら  
しい。

箱庭 6

「うさぎさんたちは、楽  
器をいたずらしてしまった  
くなるから棚の中に入いる  
の」。むこうの世界との境  
界ができたらしい。

箱庭 7

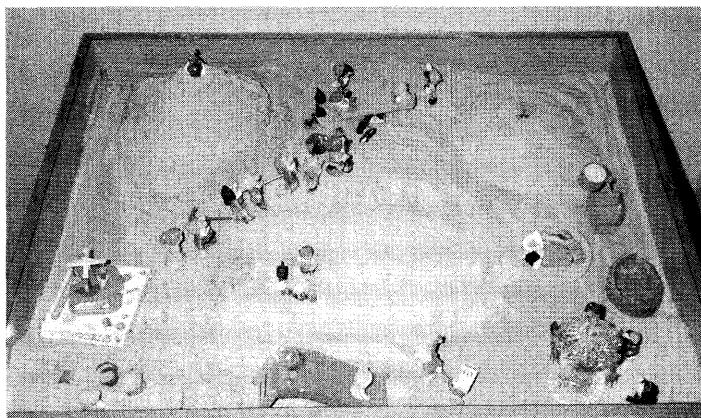
「小人さんたちは穴から  
出てきて山をのぼっている  
の」。小人さんたちはこち



► 箱庭 6

らの世界に返つてきたらしい。

—うさぎさんたちの街—



▲ 箱庭 7

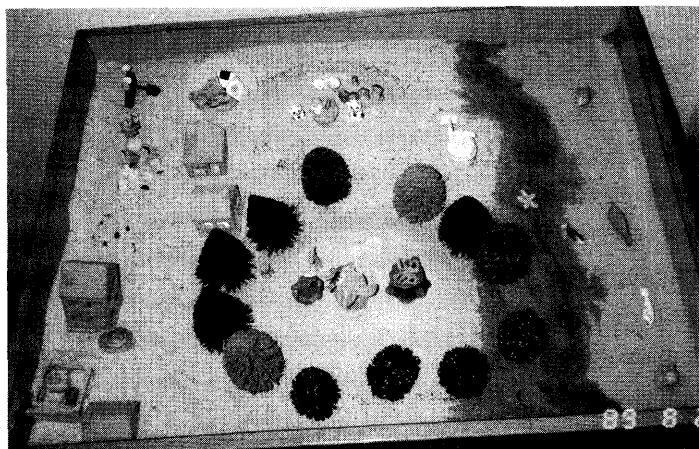
うさぎさんは舞子ちゃん自身でもあるう。

箱庭 8

うさぎさん達もこちらの世界に帰り、うさぎさん達の街をつくったようだ。むこうの世界の演奏会をきいてきたうさぎさん達は、自分達で演奏会を開いているようだ。

箱庭 9

うさぎさんの中心化が、まわりの街との関係がつきながらおきている。うさぎさんのこの段階での自己確立でもあろう七匹の小山羊は、水を飲みに行けて



► 箱庭 8

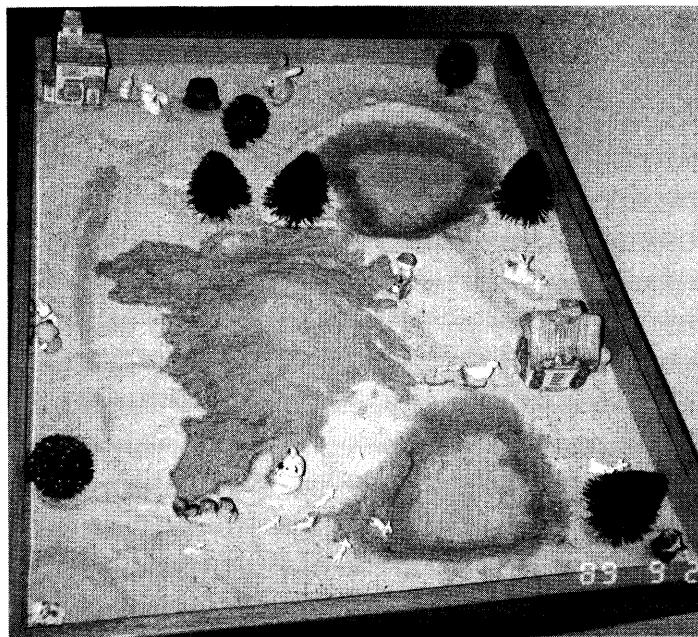
いるようだ。



▲ 箱庭 9

箱庭  
10

▼ 箱庭 10



うさぎさん達はかくれんぼをして遊んでいる。川の前の女の子と猫が箱にひつっているのは「もーいいかい」と言っているのだそうだ。右上と右下隅

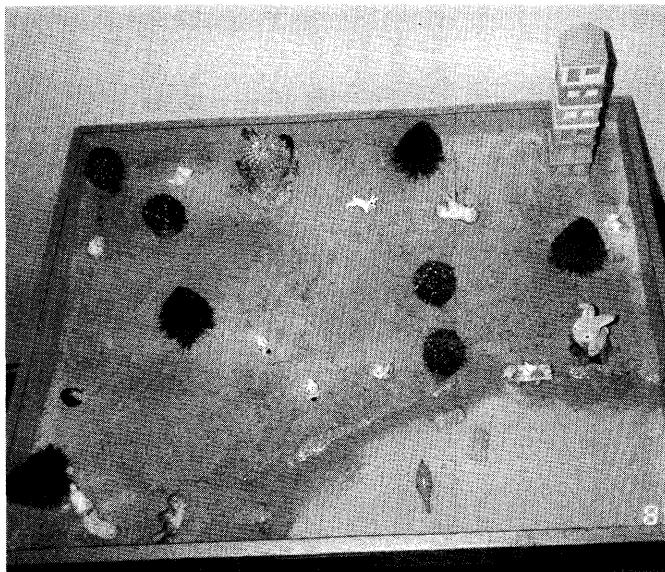
には、お父さん人形と猫が砂に埋められ、かくれていた。

### 箱庭 11

「雨のあと」。

舞子ちゃんの内なる世界の創造物語はここで一段落をつけ、その物語世界にふたをしたらしい。いろんなで

き」とが山々となってふくらみ、その後で霧ふきで雨を降らせた。犬のえさ箱には水が入れられた。



▲ 箱庭 11

この後舞子ちゃんは箱庭をせず、お部屋に入いるとすぐ遊びはじめるようになった。こわい怪獣もいくつも使つて戦うこともできるようになつたし、もう声や音は聞こえないそうだ。舞子ちゃんの内界は收まるように変容し、また無意識との境界もできてきたのであろう。舞子ちゃんの先生のお部屋での遊びは、これからも続くのだが。

終

(このはな児童学研究所)